

後志総合振興局森林室  
後志森林管理署

技師 大上 愼二  
業務グループ 山本 和人

背景・目的

蝦夷富士の異名を持つ羊蹄山の北西部に位置する倶知安町には1,250haの町有林があり、そのうちトドマツ・カラマツを主体とした人工林(755ha)の約7割は主伐期(右表参照)に達しています。

この森林資源の活用に向けて倶知安町、後志総合振興局森林室、後志森林管理署は、地域で連携した森林整備計画の策定や効率的な森林整備を目的として同町有林をモデル地区に指定し、循環利用に向けた取り組みを行ってきました。

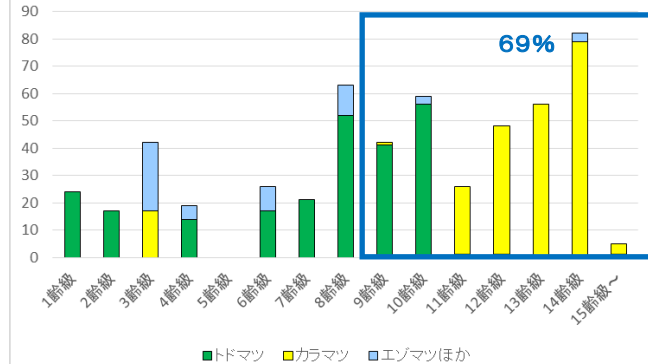
内容・成果

町有林の経営計画策定に当たっては、地元森林組合や町内の林業事業者に対し意見照会を行うなど、地域の理解を得ながら検討を進めました。

また、森林環境を保全しつつ地産地消の取り組みを実行するため、地域の製材事業者等へ素材を安定的に供給して町財政にも寄与することとし、造材事業と伐採後の再造林等の計画的実施により安定的な雇用の創出につなげるなど、町有林整備を通じたさまざまな波及効果も期待されます。

このような検討を踏まえ、755haの人工林については主伐・再造林により世代交代を図り、50年かけて齢級構成を平準化するという計画を策定し、平成30年度から事業を開始しました。

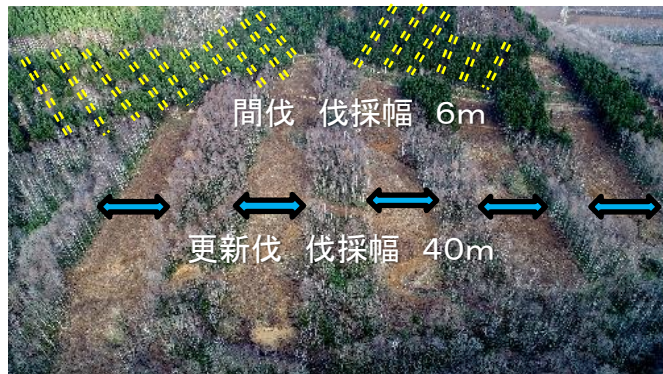
(ha) 人工林の樹種別・齢級別面積(倶知安町有林)



町、振興局、署の打合せ会議



現地調査



施業内容



事業箇所

今後の展開

国・道・市町村が連携した森林整備と材の安定供給により森林資源の循環利用を目指した「倶知安モデル」で得られた成果を積極的に活用し、後志管内のみならず全道に広げていきたいと考えています。